

国際農業工学 第3回レポート

(1) 国際協力における国際開発コンサルタントの役割

国際開発コンサルタントは日本の省庁や、国際機関などからの要請を受け海外における開発事業を実施する。主に発展途上国において、農村開発やコミュニティ開発などさまざまな面での開発を設計し、施工以外を担当する。ODA（政府開発援助）を行う国際開発コンサルタントは、現地に根付いた将来性のある開発を進める上で大きな役割を果たしている。金銭的な支援にとどまらない、より地域住民の要請に沿った開発は国際開発コンサルタントが可能にしている。地域住民が自律的に経済活動を行えるような支援、平和構築のためのコミュニティ開発など、地域の住民の生活向上のために、さまざまな開発が行われている。

(2) 印象に残ったキーワード

今回の講義では「平和構築」というキーワードがもっとも印象に残った。正直これまで、ODA や国際協力と言われても具体的にどのようなことが行われているかについてはほとんど知識がなく、むしろ「地元の要求に沿わない開発」といった批判を目にしていた。ブルンジ共和国におけるギテガ県におけるコミュニティ開発プロジェクトのお話を聞き、インフラなどの目に見える開発だけでなく、地域住民にとって本当に必要なものを考える開発が行われていることに驚かされた。お話を聞く前までは海外における平和の構築といってもあまりイメージがわかなかったが、実際に社会問題に対処するためのコミュニティ開発などが行われていることを知り、自分の中で開発のイメージが変わった。また、最後の質疑応答で岩本社長が、現地の方に「あなたたちをずっと待っていた」と言われたという話を聞いて、国際開発コンサルタントがいかに地域の住民にとって大きな役割を果たしているのか考えさせられたが、それは平和構築を目指すような住民に寄り添う開発がなされているからだろうと思う。